

宝のえにしに平八幡

(市内の貴重な文化財や自然などを紹介します)



桜の放牧地平代田

市内では数本の桜の巨樹名木が知られていますが、田代平の桜も他に引けをとりません。この桜は樹高約14m、林冠約19mで、周りに若い木々を従えて放牧地の中心部に悠然と根を下ろしています。満開は例年5月中旬で、満開から3日間ほどが見ごろとのこと。

この桜の和名はオオヤマザクラで、大形の山桜を意味し、野生の桜の中では樹高が高く、枝ぶりも丈夫であることによります。また別名はベニヤマザクラ(紅山桜)で、花弁の淡紅色が他の桜よりひときわ目立つからです。もう一つの別名はエゾヤマザクラ(蝦夷山桜)で、北海道、本州中部地方以北に分布しますが、特に北海道に多いことによります。

岩手県では山地にややふつうに生えていて、カバザクラ(樺桜)と呼んでいたものです。同じ仲間のカスミザクラよりも標高の高いところに生育し、花の色がより紅色で、市内でもよく目にします。なお、ヤマザクラの和名を持つ桜は、本州中部以南に生育しています。

オオヤマザクラの果実は径約1cmの球形で、7月頃黒紫色に熟します。子どもの頃口の周りや指先を紫色に染めながら食べたものですが、少し渋味があったことを思い出します。

(文・八幡平市文化財保護審議会委員 八幡輝夫)

《参考文献》 盛岡地方の桜(菊地政雄・永井正次著、1964年・盛岡市教育委員会)

岩手の樹木百科(菅原亀悦編著、1993年・岩手日報社)

八幡平市の植物第1集(八幡輝夫著、平成23年・八幡平市立図書館製本所蔵)

編集後記

「新体制はどうなるかな…」と、前回の編集後記でのんきに書きましたが、広報生活にピリオド(コンマ?)を打つことになりました。平成12年の広報にしねを皮切りに、議会だよりの4年間を含め通算12年間。広報担当者の間では、「泣き泣き来て、泣き泣き帰る」という言葉があります。まさに今の心境です。皆さんお世話になりました(津志田)

広報の仕事は、4月から市長公室秘書広報係で担当します。(津志田)と(北口)は別の部署に異動です。カメラなど持ったこともない私に、一から指導してくれた2人に感謝です。あわよくば表紙の写真をとっていましたが願わくは、私も係を離れることになりました。取材先でお世話になった皆さん、ありがとうございました。(齋藤)

広報担当を離れることになりました。広報担当は市役所でやりたくない仕事のトップ3に入るといわれるのを昔聞いたことがあります。私はそんなこと一度も思いませんでした。異動が決まってきた北口さんの作る広報が見れなくなるのは残念」と言ってくれた人がいて、涙が止まりませんでした。皆さん、本当にありがとうございました。(北口)

※広報はちまんたい4月5日号(Na.148)の印刷経費は1部66,3075円、発行部数は10,700部です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載については、市役所市長公室(☎・内線1212)まで。

